

# 日

本のアイデンティティーは「和」の精神である。「和」の消極的な理解は「争わない」こと。即ち、問題を問題としないことである。積極的な理解は「有り難う」の具体的行動の実施である。「有り難う」の反対は「当たり前」である。「水道の蛇口をひねれば、飲水が出る当たり前に有り難う」である。自分の存在が「当たり前」でないことよって成立していることが分れば、行動せざるを得ない。その行動によつて必然的にもたらされる人間関係が積極的な「和」である。この和の満ち溢れる社会こそ明るい社会づくり運動の目標と考える。

「有り難う」の具体的行動は「もったいない」「おかげさま」「おたがいさま」の三つである。「もったいない」とは資源の節約・儉約である。「おかげさま」とは他人への喜捨である。「おたがいさま」とは不条理に対する連帯である。

岡山県明るい社会づくり運動の会長を

## 明るい社会づくり

# この人に聞く



## 菅波 茂

国連登録NGO AMDA代表  
岡山県明るい社会づくり運動会長

プロフィール・すがなみしげる  
1946年生まれ。現職、医療法人アスカ会理事長、アスカ国際クリニック院長、社会福祉法人遊々会理事、内科医、公設国際貢献大学校長、国連登録NGO AMDA代表、特定非営利活動法人AMDA（アムダ）理事長。著書『選なる夢』『AMDAの提言』『はばだけ！NGO/NPO』『医療和平』ほか多数。

受けるに当たって、次の「有り難う」プログラムの実施を提言したい。一つは「おかげさま」を具現化した「青少年育成全国交流活動」プログラム。二つが「おたがいさま」を具現化した「災害救援活動」プログラムである。

「青少年育成全国交流活動」は地区明社の協力により青少年のホームステイとボランティア活動を組み合わせ、青少年に「有り難う」を言ってもらえることがキーワードである。「有り難う」には「私はあなたを必要としている」の意味もある。

「災害救援活動」は地区明社の相互扶助活動である。いずれにしろ、日本列島を縦断した地区明社の協力なしには実施できないプログラムである。逆に、これらのプログラムが実施できた時には、地区明社の存在が当たり前でないことを証明することになる。

明るい社会づくり運動の源流は仏教である。ご縁の思想を大切にしたい。「青少年育成全国交流活動」と「災害救援活動」プログラムにより新たな良きご縁がいただければ幸いである。